



AQI内の研究室で

つくばで輝く研究者

ITO Kahori 伊藤 夏帆里 さん(33)
アサヒクオリティードイノベーションズ株式会社(AQI)
プロセス開発研究所 培養技術開発部 マネジャー

東京都出身。東京理科大学基礎工学部生物工学科卒業後、同大学院基礎工学研究科生物工学専攻(修士)。2011年カルピス株式会社に入社し、DNA分析や微生物の研究ほか、品質や生産技術の管理を務め、2018年からAQIプロセス開発研究所で主に有用乳酸菌の培養技術開発を行う。

培養技術の開発
さまざまな乳酸菌の中から機能性成分とされる目的物質をより多く生産する条件を見いだす培養制御技術の開発を行う。健康素材として注目される乳酸菌は多種多様で、機能性食品として量産化するには培養技術の最適化が欠かせない。また、商品の生産プロセスも重要で、工場での生産コストも含めて生産技術部門と連携しながら最適な培養条件に落とし込む。「菌の種類はとて多く、それぞれ好む培養条件も異なります。その性質を調べることで新たな乳酸菌の培養最適化がよりスムーズできるように新しい技術

培養技術開発で機能性素材を生む

開発をしています。乳酸菌の研究をさらに深め、専門分野として技術を確立したい」
《生物への興味》
東京都生まれ。父の仕事の関係で7歳まで長野県で暮らし、自然の中で遊ぶうちに生物好きになった。小学2年で千葉県に移住し、中学から東京に戻り都内の中高一貫校に進学。獣医だった祖父に憧れた理科好き少女は、中学生で遺伝子工学や免疫工学など最先端のバイオテクノロジーに興味を持ち、「先端技術を学んで医療などに役立つ仕事ができる」と研究の道を目指した。大学1年時のキャンパスは北海道長万部町。大自然の中で生物工学の基礎を学びながら、中学から続いていたバスケットボールのサークル活動も経験。メンバーが少なく苦勞もあったが、大会にも出場するなど楽しい思い出を作った。大学院では生物工学を専攻し、植物分子生物学と遺伝子工学を研究。「自力で動けない植物を持つ



培養した発酵乳の分析

『環境に適応する遺伝子』の研究は、大変興味深かった」。卒業後は開発という仕事に魅かれ食品メーカーに就職。充実した研究施設も魅力だったが「社風が自分の肌に合っている感じがしたのが一番の決め手でした」。入社後は工場にも直接足を運び、商品になるまでのプロセスにも気を配る。「研究開発だけでなく、商品の完成や品質管理まで責任を持つて取り組んでいきたい」

つくばの暮らし

就職後約2年暮らした神奈川県逗子市で巡り合った夫と愛娘の3人家族で昨年つくばに転居。「自然や教育環境、地域コミュニティなどが気に入っています。週末には家族でつくばの自然を満喫している。」



自宅近くの田園を愛娘と散歩

世界のアシタが見えるまち。

つくば市委託事業